

# SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

## 欲望の翼

(阿飛正傳 / Days of Being Wild)

1990年・香港映画・97分

配給 / プレノン・アッシュ

2004 (平成16) 年6月30日鑑賞

<シネ・ヌーヴォ・中国映画の全貌2004>

Data

監督・脚本: 王家衛 (ウォン・カーウアイ)

出演: 張國榮 (レスリー・チャン)  
／劉德華 (アンディ・ラウ)  
／張曼玉 (マギー・チャン)  
／劉嘉玲 (カーリーナ・ラウ)  
／張學友 (ジャッキー・チャン) / 潘迪華 (レベッカ・パン) / 梁朝偉 (トニー・レオン)

## 👁️👁️ みどころ

1960年の香港を舞台に、頹廢的で自由奔放な主人公、張國榮 (レスリー・チャン) と、これに惹かれる2人の女性、張曼玉 (マギー・チャン) と劉嘉玲 (カーリーナ・ラウ)。香港の6大スターを共演させて、王家衛 (ウォン・カーウアイ) 監督が描く「青春群像」は、『欲望の翼』というタイトルがピッタリの刺激的なもの……。けだるいラテン音楽も魅惑的。しかし思わせぶりなラストはどうも……？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### <頹廢的で自由奔放な主人公>

主人公のヨディ (張國榮 / レスリー・チャン) はカッコいい若者だが、かなりのひねくれ者。それは、養母のレベッカ (潘迪華 / レベッカ・パン) から実の母親の情報を与えられていないからだ。そんなヨディはお金に不自由しておらず、仕事は大キライ。だから、気持のおさまりのつかないところは、若い女性とのつき合い (?) で癒していた。しかし、将来に何の希望もなく頹廢的に生きるヨディは、恋人に対しても「誠実」でいられないのは当然……。このひねくれ者のヨディを演ずる張國榮は、『エデンの東』(55年) で彗星のようにスクリーンに登場した、1950年代のアメリカの大スター、ジェームズ・ディーンのようなものか……？

### <ヨディをめぐる第1の女性>

頹廢的だが、カッコいいヨディはモテモテ。サッカー場の売店で売り子をしているスーリーチェン (張曼玉 / マギー・チャン) の口説き方もかなりキザだが、ヨディがやるとキマっている。最初に「共にした1分」が、いつしか2分になり、1時間になり、そしてい

つかスーはヨディの部屋に入りびたり……。そして、ここで起こる若い男女の「争い」は、世間によくあるパターン。つまり、何事にもまじめなため、本気でヨディを好きになったスーは結婚願望を口に……。しかしヨディは……。1964年生まれの張曼玉は、この映画の時、26～7歳。そりゃキレイ。私は彼女を見て、前から誰かに似ていると思っていたのだが、この映画を観て、彼女はかつての大映の看板女優、藤村志保に似ていると気づいた(?)が、果たしてあなたの意見は……?

### <ヨディをめぐる第2の女性>

スーがヨディの部屋を飛び出した後、ヨディが次にひっかけた(?)のは、レベッカの経営するナイトクラブのダンサーのミミ(劉嘉玲/カーリーナ・ラウ)。出会いから、いきなり「俺の部屋に寄っていかないか?」の一言で、「ちょっとだけよ」と弁解(?)しつつ、寄ってくるのだから、やっぱりカッコいい男はいい。ヨディのような、自分本位でわがままな女関係が続けながら、女の子の方から別れられないというパターンはよくあるが、それはやっぱり男がハンサムでカッコよく、そして……?

まじめ一筋のスーに比べると、このミミはかなりワガママで奔放だが、一方で単純なオンナ。だからヨディとケンカはしても、最後は自分から折れてしまう。したがって2人の関係は比較的順調だったが……?

### <劉徳華(アンディ・ラウ)の登場>

タイド(劉徳華)は、ヨディの住む家の近くを巡回する警察官。このタイドがスーと知り合った(?)のは、ヨディと別れきれず、ヨディの部屋を訪ねようとしていたスーを発見したため。「結婚できなくてもいい。そばにいたい!」と折れて(?)、ヨディに迫るスーだが、この部屋には今は既にミミが……。こんな「行き違い」も世間ではよくあるが、あの美人の張曼玉が、フラれて涙して放心状態になっているのを見るのは私もつらい……? 警察官のヨディも、私と同じ気持だったのか(?), やさしくスーに声をかけ、帰りのタクシー代を渡すことに。当然、タイドはスーのことが気がかり。ヨディのことを忘れられず、再三ヨディのアパートを訪れるスーと、巡回任務のタイドは、一時を「共有」し、お互いの身の上話を。しかし2人の中の恋の発展は……?

### <もう1人の男は張學友(ジャッキー・チャン)>

サブ(張學友)は、ヨディの親友だが、ヨディのように「主役」にはなれないタイプ。ヨディの部屋を訪れたサブは、そこでヨディと一夜を過ごしたミミを見て、これに一目惚れ。ヨディが実の母親に会うため、フィリピンに旅立つことになった時、ヨディは部屋も車もサブに譲るが、さすがに女だけは譲るわけにはいかない……。ヨディがいなくなった後のサブとミミとのバトル(?)は、結構大変なもの。こんなワリの悪い役柄のサブを、

張學友は渋く、見事に演じている。

### <最後のちょい役(?)の梁朝偉(トニー・レオン)>

「6人の大スターの共演」の最後は、梁朝偉だが、これはちょっといただけない。すべてのストーリーが完結した後、思い出したように、天井の低いアパートの一室に、1人のプロのギャングラーが登場。爪を磨き、髪を整え、札束を収め、トランプをポケットに入れるのが梁朝偉で、出番はこの1シーンだけ。これは、昨年と今年、大ヒットした『キル・ビル』(03・04年)と逆に、この映画はもともと前後2部作でつくる予定だったが、ロードショー当日を控えても完成したのは第1部だけで、予算も既に2作分をオーバーしていたとのこと。そのため、この梁朝偉の1シーンは第2部への予告的な意味で挿入されたが、第2部は完成していない(?)ということだ。

### <舞台は香港からフィリピンへ>

ヨディの性格がひねくれていたのは、実の母親を知らされないせい・・・?そのため、再三養母のレベッカとヨディは議論をくり返したが、レベッカは遂に実母の手紙をヨディに見せた。ヨディの母親はフィリピンの貴族の娘。不義の息子を自分が育てることができないため、レベッカに預け、毎月米国ドルで50ドルを仕送りしていたというわけだ。こんな母親を、フィリピンのマニラまで訪ねていったヨディだったが、母親は面会拒否。そんな時マニラを、警察官から船員となって訪れていたのがタイド。ニセのパスポートでアメリカに渡ろうとしていたヨディは、酒に酔いつぶれ、何とも無様なありさま。こんなヨディを助け、ホテルに連れていったタイドは、この後、ヨディとの間で、何ともスリリングな心理劇を見せる。そしてまた、意外な展開となるギャングとの大活劇も。そして遂にヨディは・・・?

### <王家衛(ウォン・カーウアイ)監督の狙いは?>

王家衛監督は、1988年に『いますぐ抱きしめたい』で監督デビューを果たし、以降、この『欲望の翼』、『恋する惑星』(94年)、『樂園の瑕』(94年)、『天使の涙』(95年)、『ブエノスアイレス』(97年)、『花様年華』(00年)とたて続けに大ヒットを飛ばした、1958年上海生まれの監督。5歳から香港に移住し、24歳から映画制作に関わってきた、香港で最も有名な監督だ。その第2作目にあたる、この『欲望の翼』は、1960年の香港を舞台に、6大スターを共演させてその青春群像を描いたもの。その時、王家衛監督は32歳。30歳前後の青春まっさかりの時期にあった張國榮、劉德華、張曼玉ら6大スターを共演させた映画だから、そこで描かれているのは、当然、良くも悪くも、1960年の香港におけるその「若さ」。そして、若さが暴走し、悲劇的結末で終わるのも、世の常識。そんな若い感性を十二分に感じさせてくれるのがこの映画。そして、すばらしいの

が、けだるい雰囲気の張國榮に合わせるかのように、バックに流れるラテン音楽の美しさ。  
これはフィリピンが舞台となる後半を観ると、特にマッチする感じ。それにしてもくどい  
ようだが、この映画での張曼玉の美しさは最高！

2004（平成16）年7月1日記